

谷山小学校(鹿児島市) 学年ごとに目標設定



新聞で紙鉄砲を作る1年生

学年ごとに目標を設定し、多彩な学びに取り組んでいる。低学年では、遊び感覚で新聞に親しんでもらう。新聞で紙鉄砲を作ったり、4コマ漫画のセリフを考えたりするほか、学習した漢字やカタカナを記事の中から探している。

高学年は、新聞を通して情報の活用や発信について学ぶ。1月の「NIEタイム」では、6年生が「はがきサイズの紙に意見をまとめる」「はがき新聞」を製作。

児童らはテーマとして、旅行の思い出や、家族、将来の自分などを選んで、記事を書き、感想を書く「ファミリーフオーカス」にも取り組む。学期ごとに全学年で行われ、児童が読み比べることができるように掲示される。

6年生の担任、田代晋平教諭(38)は「記事を読み、他の人と意見を共有することで、自分の考えを客観的に捉え直すことができる」と話す。(佐藤鈴奈)

鹿児島県内で2019年度、NIE(教育に新聞を)実践校に指定された小学校6校、中学校5校、高校2校の計13校が新

聞を使った授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業を数回に分けて紹介する。

かごしま NIE実践校



自分で選んだ記事を示して発表する児童

枕崎小学校(枕崎市) 記事を要約して発表

実践校1年目。5、6年生の教室前に、保護者の協力で新聞閲覧台を設置。気軽に読める環境が整い、「はがき新聞」作りや投稿などに取り組んだ。

特に6年生は、教育学者の齋藤孝さんが提唱する「ときばきプレゼン」に力を入れる。週末に家庭で気になる記事を選び、毎週月曜日に、その記事を選んだ理由や感想、提案をワークシートに沿って発表する。枕崎お魚センター内で

きたミニ水族館の記事を選んだ鮫島和華さんは「たくさんの人に枕崎に来てほしい。新聞を読んで地元に関心を持つようになった」。戸高丈聡教諭(42)は「分からない語句を調べ、要旨をまとめ、相手を意識して話すので、言葉の力と発表力がつく」と話す。

山下聖和校長(55)は「幅広い分野のことを知ることができ、子どもたちの視野が広がった」と手応えを感じている。(藤本祐希)



意見を出し合いながら「はがき新聞」を作る生徒

武岡中学校(鹿児島市) 新聞作りで表現磨く

実践校として3年目を迎えた本年度は、「読んで考えた本年度は、」と意識の変化を語る。全学年を通して、帰りの会で、クラスの一人が興味のある記事について感想を述べる「1分間スピーチ」を実施する。社会問題に関心を持つ生徒が増えるという効果も出てきた。担当の穂満久美子教諭(45)は「まずは新聞に親しみつつ、思考力、表現力を磨く活動として続けていきたい」と話す。(山田天眞)

実践校として3年目を迎えた本年度は、「読んで考えた本年度は、」と意識の変化を語る。全学年を通して、帰りの会で、クラスの一人が興味のある記事について感想を述べる「1分間スピーチ」を実施する。社会問題に関心を持つ生徒が増えるという効果も出てきた。担当の穂満久美子教諭(45)は「まずは新聞に親しみつつ、思考力、表現力を磨く活動として続けていきたい」と話す。(山田天眞)